

令和6年度 認定こども園 栄光幼稚園

自己評価学校関係者評価

当園では、毎年、各教職員が自らの保育・教育を振り返り、自分自身や園全体を見つめ直すための『自己点検自己評価』と、園に関わってくださっている方々にご意見を頂き改善に努める為、『学校関係者評価』を実施しておりますが、令和6年度の評価の纏めが完成いたしましたのでお知らせ致します。今後もより充実した保育・教育活動が行えるよう教職員及び園の資質向上に努めていきたいと考えておりますので皆様の貴重なご意見を宜しくお願い致します。

1. 教育方針

『あそび』を主体とした幼稚園生活からたくましく『生きる力』を育てる。

～幼児期にふさわしい生活の中で、あかるくのびやかに活動し、健康な体と豊かな心を育てる～

- ・つよいこ すこやかな体と、どんな困難も乗り越える強い意志を持てる子
- ・あかるいこ 誰とでも仲良く笑顔でのびのびと行動できる子
- ・やさしいこ 心が広くおもいやりのある子
- ・かしこいこ よく見てよく考え善悪の判断力をしっかり持てる子
- ・たくましいこ なにごともにも勇気を持って挑戦する子

2. 今年度の主な課題と取り組み

前年度の幼児部公開保育担当園で研究してきたことを基盤として今年度も『あそび込める環境』や『保育教諭の願いを込めた子ども主体の活動』について模索してきた。また、令和6年度はより子どもが自ら参画できる環境を考え、年長組を中心に『話し合い』の時間を積極的に設け、子ども達が意見を出し合い、活動に参加することを心がけた。また新職員も多く入ったことをきっかけに本園の基本的な教育方針等について職員全体で再確認することができ、保育教諭自身も『願い』を込めた保育・教育を楽しんで行うことが出来た。また、園内研修や日々の打ち合わせを通して、より安全安心な保育について積極的に学びながら共通理解を深めてきた。毎年継続している救急救命講習を通して、職員の理解と実践が身につけてきているように見受けられる。反省点を基に改善を繰り返しながら理想的な教育・保育の確立に近づくよう努力している。

【主に取り組んだ事柄】

- ICT化導入と定着
- 行事や活動の見直しと改善
- 園児を取り巻く『環境』と『願い』のある保育の模索

3. 各項目の自己評価及び達成状況

評価項目	自己評価	取り組み・達成状況
I. 保育の計画性	B	基本、年間カリキュラムや週日案等に沿って保育・教育を進める中で、子どもたちの遊びの盛り上がりや興味関心に沿って活動を変化させていく柔軟な対応の仕方や職員間の共通理解のあり方に差が感じられたり、何をどこまで大切にしていくなか、迷いが生じることがあった。
II. 保育の在り方・幼児への対応	A	昨年度の学びを活かし、担任の『願い』の入った保育・教育を心がけることで、子ども達の遊びが充実、発展することができた。子ども達への接し方や保育についても経験者が積極的にアイデアや意見を出すことで他職員も刺激を受けながら自分の保育を模索することができたように感じている。
III. 保育者としての能力や良識・適性	B	それぞれの働き方やシフトが違う為、全職員で、本園の方針や保育・教育の在り方について確認し合う機会が少なかったと感じている。全体的に、職員全員が園の方針を理解し同じ方向を向きながら共通理解のもと子ども達に接することが出来ていたと思う。
IV. 保護者への対応	B	各部署で方法は違うが、ブログやアルバム、懇談等で、園での子ども達の様子を積極的に保護者と共有できるよう努めた。全体的には円滑だったと感じているが、行事や今後の活動等について園からの発信が足りず、結果的に雑な対応となってしまったことがあった。保護者からの意見は真摯に受け止め改善に心がけた。
V. 地域の自然や社会との関わり	B	地域のニーズや子どもを取り巻く社会の状況等、その時に必要と思うことを見据えながら常にアップデートを繰り返すよう心掛ける中で、子育て支援事業もリニューアルし、より参加しやすく幅広い層に活用してもらえるように改善した。地域との交流については模索段階で今後に繋げられるよう認定こども園として出来る事の情報収集に努めた。
VI. 研究と研修	A	昨年度の公開保育から本園の教育について職員間での研究や共通理解が進み、本園の教育として「やりたいこと」「足りないこと」等が明確となったことで、特に後半は、今の『認定こども園栄光幼稚園』として相応しい教育・保育の在り方についての目標が定まった。1年を通して子ども中心の教育・保育について研究・実践が出来た。

4. 学校関係者評価

【子どもの様子】

- ◇ 『幼稚園』だった頃より子どもたちがのびのびと楽しそうにあそびに参加し表情も豊かである。子どもたちの主体的な活動がより保証されていることを見て取れる。
- ◇ 先生達の関りもあり、落ち着いて自分自身がやりたいことに一生懸命な姿が見られる。

【環境】

- ◇ 玄関、トイレ等の共有スペースがとても綺麗で気持ちよく利用できる。
- ◇ 絵本コーナーは、子どもがわくわくしながら選べるスペースだと感じる。
- ◇ 朝の登園時等、保育室以外(廊下等)での活動をする子で危険を感じる場面があったので対策が必要。

【職員】

- ◇ 一人ひとりに寄り添った指導が出来ている。
- ◇ 年々、担任はじめ職員の『経験』に基づく意欲と実力が向上していると感じている。特に「学びたい」「より良い保育をしたい」という思い、保育を楽しんでいる姿が年を追うごとに感じられ自己研鑽が出来ていると感じる。
- ◇ 書類などの記入、会議での発言についても纏めて、的を得て伝えられるようになっている。
- ◇ 子どもの発達等、専門的なことに目を向け、理解が深まっている。
- ◇ 職員が常に笑顔で、前向きな言葉がけをしていることが好ましく全体が明るい雰囲気であるとを感じる。
- ◇ 保育研究が積極的に行われ、子ども達への関わり方や環境などが改善されている。昨年同様、保育をよくしていこうという気持ちが伝わる。
- ◇ 支援が必要な子に対しての知識と経験がより深まり、各職員、園児が安心して過ごせる環境を整える努力が見られる。今後は更に専門知識を深め、職員間で対策を編み出せるよう取り組んでほしい。
- ◇ 若い職員には多くの経験が必要である。判断をする際は焦らずに長い目で見て、見極めていく力を養ってほしい。

5. 昨年度の課題への取り組み

【ICT化の定着】

新しいことを始めるということに多少の不安もあったが、事前に業者と綿密な打ち合わせと準備を重ねたことと保護者の協力により、スムーズだったように感じている。導入後も、手紙類、連絡等を全てアプリで行うことで紛失やミス、行き違いも無くなり、業務削減にも大いに役立っている。

【環境充実の継続】

令和6年度は、天候不順や猛暑の関係から、必然的に室内で過ごすことが多かった為、主に室内環境の充実に力を入れた形となった。子どもたちの遊びを見ながらその都度教師が環境を整えていったことで、室内でのあそびの充実と工夫が見られ、それが発表会等の行事に発展する等大きな成果も感じられた。次年度は、外あそびの環境も再度見直し、積極的に改善していきたい。

【地域との関り】

認定こども園の役割として地域連携は欠かせない。子育て支援の一環として近隣の方々に園開放や親子サークルを利用していただいているが、それ以外のことについて、今の時代と園の状況で出来る事を模索する為の情報収集に時間を要し足踏みしていた。今後は、無理の無い範囲で出来る事を少しずつ進めていけるよう積極的に取り組んでいきたい。

【乳幼児発達の共通理解】

乳児部と幼児部それぞれの『ねらい』をもとに教育・保育を最長で6年間、一貫した本園の保育・教育を受ける為の共通理解が必要と考える。各々で発達理解等の研修や話し合いを重ねているものの、乳児と幼児の違いや発達等について、職員間の情報交換や共通理解の場を増やす必要性も感じている。今後も子ども同士の交流の場を積極的に設ける等、年齢や保育の形態関係なく、『認定こども園栄光幼稚園』の子どもたちとして、全職員で一人ひとりをみていく姿勢を保ち続けていけるよう意識向上を続けたい。

6. 今後の課題

- ・安全対策強化
- ・『環境』の充実の継続
- ・地域との関り

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる。